

教員養成の目標・計画

①大学

| 目標 | 計画 |
|--|--|
| <p>本学の教員養成では、教員に必要とされる教職並びに教科についての知識と理解、適切なコミュニケーションに基づき他者と連携・協力する力、高い倫理観そして現代の学校教育現場をとり巻く様々な問題の解決に主体的・積極的に取り組もうとする態度とそれを実践する力を備えた教員の育成を図ることを目標とする。</p> <p>この理念に基づき、次のような構想をもって教員養成を行うこととする。</p> <p>a. 教育委員会や学校、社会教育機関等との緊密な連携をとり、学外での体験・研修を経験させることにより、教育現場の現状についての理解を図る。</p> <p>b. 実験や演習を中心とする実践的・体験的な専門教育を通して、教科に関する知識・技術と高い倫理観を身に付ける。</p> <p>c. アクティブラーニングを通して、主体的に問題を見つけ、解決する方法を修得し、課題に取り組む態度の育成を図る。</p> | <p>1年次 「教職概論」「教育心理学」「教育制度論」「特別支援教育」などの履修を通して、教職とは何かを知り、基本的な知識を修得する。</p> |
| | <p>2年次 「教育課程論」「教育原理」「生徒・進路指導論」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」「教育相談」「教育方法学」などの科目を通して、教職に関する基本的な知識及び技能をさらに修得する。</p> |
| | <p>3年次 各教科の指導法で、それまで教科専門科目で学んだ商業の領域に関する知識と技能、そして教職専門科目で学んだ教員としての知識及び技能を基に、教科教育法において科目の指導案を作成する。</p> |
| | <p>4年次 3年次までに培った知識及び技能をもとに、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で「教育実習」を行う。「教育実習」を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。</p> |

②学科等

| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 |
|---|---------|---|---|
| 工学部 | 電気電子工学科 | 工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、新しい技術に柔軟に対応でき、コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。 | 工業 |
| | | | <p>1年次 電気電子分野において必要な数学や物理を学ぶと共に、基本となる電気回路について講義と演習を通じて習得する。</p> |
| | | | <p>2年次 電気電子の専門分野における基礎科目を学ぶと同時に、演習や実験によって技能の習得に努め、さらに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力を養う。</p> |
| | | | <p>3年次 エレクトロニクス技術や電子機械技術に関する専門科目を学ぶと同時に、実験によって講義内容の理解を深め、さらに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力と文章作成能力を養う。</p> |
| | | | <p>4年次 専門性の高い科目および電気法規について学ぶと共に、研修を通して問題解決能力、プレゼンテーション能力および文章作成能力を身に付け、4年間の学習を統合する。</p> |
| | | | 情報 |
| | | | <p>1年次 電気電子および情報分野において必要な数学や物理を学ぶと共に、コンピュータの基礎知識を講義と演習を通じて習得する。</p> |
| | | | <p>2年次 情報処理の専門分野における基礎科目を学ぶと同時に、演習や実験によって技能の習得に努め、さらに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力を養う。</p> |
| <p>3年次 コンピュータ技術や電子機械技術に関する専門科目を学ぶと同時に、実験によって講義内容の理解を深め、さらに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力と文章作成能力を養う。</p> | | | |
| <p>4年次 専門性の高い科目および知的財産について学ぶと共に、研修を通して問題解決能力、プレゼンテーション能力および文章作成能力を身に付け、4年間の学習を統合する。</p> | | | |

| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 | | |
|-----|------------|--|----|-----|---|
| 工学部 | 情報通信工学科 | 工業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。 | 工業 | 1年次 | 電気現象の数学的扱いと電気回路の基礎を学ぶと共に、プログラミング技術についての知識と技能を習得する。 |
| | | | | 2年次 | 電気及び電子技術の基礎を学ぶと同時に、演習や実験によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。 |
| | | | | 3年次 | 通信技術や電子回路の基礎を学ぶと同時に、演習や実験によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。 |
| | | | | 4年次 | 専門性の高い各論として光通信や電気通信法規等について学ぶのと並行して、研修を通じて問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し、4年間の学習を統合する。 |
| | | | 情報 | 1年次 | コンピュータハードウェアとプログラミングの基礎を学び、それを基に情報システムを開発するための知識と技能を習得する。 |
| | | | | 2年次 | 情報テクノロジーの基礎、情報システムを構成する基本技術を学び、ならびにソフトウェア開発ならびに数値データの利用について知識と技能を習得する。 |
| | | | | 3年次 | プロセッサやマイクロコンピュータおよびネットワークシステムとコンピュータグラフィックスについて学び、演習や実験によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。 |
| | | | | 4年次 | 研修を通じて問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し、4年間の学習を統合する。 |
| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 | | |
| 工学部 | 都市マネジメント学科 | 工業の領域の確かな基礎を持ち、高い良識と倫理観を持った、都市や地域社会のマネジメントに関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。 | 工業 | 1年次 | 大学教育において専門のカリキュラムを理解するために必要となる数学、物理学、化学などの自然科学やコンピュータによるリテラシーやCADに関する情報技術を学ぶ。また材料、地盤地質学、環境・防災工学などの専門科目の基礎を学ぶ。さらにセミナーを通して専門について早い段階から見直しを持てるようにする。 |
| | | | | 2年次 | 引き続き数学、物理学、化学などの自然科学や専門科目として構造力学、基礎地盤、水理学、計画学、空間測量など都市マネジメントに関わる科目を学ぶと共に空間測量実習により具体的な技術を習得する。さらにセミナーにより専門への認識を深め工学に関する倫理観を養う。 |
| | | | | 3年次 | 構造力学、水理学、計画学、環境などについてより専門性の高い内容を学ぶ。さらに実験により学習内容への理解を深めると共に技能の習得に努める。また設計演習によりエンジニアリングデザイン力を、技術者倫理により社会人として求められる倫理観を養う。 |
| | | | | 4年次 | 研修により専門に関わる現実の社会問題を把握し、それを契機として自己啓発や相互理解と協力を努め卒業論文を纏めることにより4年間の学習を統合する。 |

| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 | |
|-----------|----------|--|-----|---|
| 工学部 | 環境応用化学科 | 持続可能な社会の構築に向け、応用化学の発展と地球環境保全の調和をめざす高度の解析処理能力を基盤とした視野の広い工業教育を行う教員を養成することを目標とする。 | 1年次 | 工学・工業の社会における役割と問題点を、応用化学と環境学の基礎講義を通して理解する。また科学技術者としての倫理観を学び化学物質の社会に与える影響を理解し、持続可能な社会のために必要な仕組みを理解する。 |
| | | | 2年次 | 電化学者の開発する材料や技術が環境・エネルギー問題の解決や持続可能な社会を支える必要要素であることを学び、応用化学技術者を育成する責任の大きさを理解する。また地域環境調査法や分析化学の科目を通して、環境分析方法や分析機器の原理を理解し、実技教育に必要な基礎知識を身につける。 |
| | | | 3年次 | 材料や計測に関連する科目を通して多角的に化学的現象を理解・解釈する能力と理解した物事の記述やまとめを行う能力を身につける。また専門的な内容を誰にでもわかり易くする説明する能力と論理的な受け答えをする能力を身につける。 |
| | | | 4年次 | 、科目の総まとめを踏まえて、自らの実践をふりかえり、自己課題の解消を図ることを通して、バランスのとれた実践力を身につける。また学会や科学イベントなどへの参加により、地域との繋がりを実感するとともに化学の魅力を高校生や中学生に伝える方法を身につける。 |
| 建築学部 | 建築学科 | 工業の領域の確かな基礎を持ち、総合的な視野と高い倫理観を備えた、建築に秀でた教員の養成を目標とする。 | 1年次 | 建築入門を通して建築学が包含する広く深い世界に触れると共に、住宅など身近な建物の設計のための知識と技術を習得するため、計画や構造、材料に関する基礎を学ぶと同時に、演習や実験によって講義内容の理解を深める。更に、設計など実践的なトレーニングを取り入れ、論理的な思考力と表現力を総合的に身につける。 |
| | | | 2年次 | 住宅以外の施設設計のための知識と技術を習得すると共に、建築と環境の関係を理解するため、法規や計画、構造に加えて環境・設備に関する基礎を学ぶと同時に、演習や実験によって講義内容の理解を深める。更に、設計など実践的なトレーニングを取り入れ、論理的な思考力と表現力を総合的に身につける。 |
| | | | 3年次 | 1～2年次に習得した基礎的知識をより実践的に身につけるため、計画や構造に加えて生産・施工に関する基礎を学ぶ。また、建築システムコースと建築デザインコースのコース制を設け、選択性・柔軟性のあるカリキュラムを通して、興味や特性に応じた知識・技術を習得し、多様な進路に対応した能力を身につける。 |
| | | | 4年次 | 専門性の高い計画、構造等の各論について学ぶと共に、少人数による卒業研修を通して企画力、提案力、分析力、表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。 |
| ライフデザイン学部 | 産業デザイン学科 | 工業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、問題把握力とその解決のための具体的な提案力に秀でた教員の養成を目標とする。 | 1年次 | 問題を解決するアイデアを効率よく発想するための手法、およびアイデアを具体的な形にし、的確に他者へ伝えるために必要なアナログ・デジタル技術を身につける。また、多岐にわたるデザインの対象を包括的に学ぶことで、その幅広さと、現代社会でのもの作りにおけるデザインの有効性、意義を理解する。 |
| | | | 2年次 | 演習や実習によって時間軸を意識した表現を行う基礎力とデザインプロセスの流れを理解しアイデアを実現する基本技術を習得する。また、工業製品の素材特性とそれらの加工成形技術や原理と、幅広く応用可能なコミュニケーション力、情報伝達技術を習得する。 |
| | | | 3年次 | 多岐にわたるデザイン分野の中から自身が実習を選択しアイデアを実現する論理と手法を習得する。また、実習をベースにより高度なデザイン手法を身につけ専門的な技術や論理を習得する。 |
| | | | 4年次 | 必修科目である研修を通して、デザインの実践力、応用力、プレゼンテーション力を高める。 |

| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 | | |
|-----------|---------------|---|----|-----|--|
| ライフデザイン学部 | 生活デザイン学科 | 建築学・社会学・福祉学・家政学などの諸領域を中心に、工学・工業に関わる確かな基礎知識と統合力・デザイン力を持ち、幅広い視野と高い倫理観を有する教員を養成することを目標とする。 | 工業 | 1年次 | 生活デザインの基盤である「地域（空間及び社会）」について学ぶと共に、デザインと製図についての知識と技能を習得する。 |
| | | | | 2年次 | 建築学・社会学・福祉学・家政学などの基礎を横断的に学ぶと同時に、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。 |
| | | | | 3年次 | 「くらしのデザイン」と「住環境デザイン」の2系統に分かれて横断的に学んできた建築学・社会学・福祉学・家政学について専門的に学び、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。 |
| | | | | 4年次 | 専門性の高い各論として生活デザインについて学ぶのと平行して、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を、研修を通じて4年間の学習を統合する。 |
| 学部 | 学科 | 目標 | 計画 | | |
| ライフデザイン学部 | 経営コミュニケーション学科 | 商業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い経営に関する知識とコミュニケーションに関する実践力を持った教員の養成を目標とする。 | 商業 | 1年次 | 経済学、経営学、会計学の基礎を学び、経済の仕組みを支えるビジネスの意義を理解する。また経済事象に対する主体性を養い、これらをプレゼンテーションやレポートの形でまとめることで、コミュニケーション能力の涵養をも図る。 |
| | | | | 2年次 | 経営管理論、マーケティング論を学び、ビジネス上の課題を設定し、理論を用いて計画的に解決する手法を理解する。また、社会調査法やデータ分析などによってビジネスの現場で必要となる ICT（情報通信技術）を学び、情報の的確な処理能力とともに経済事象の分析を通じた課題解決能力を涵養する。 |
| | | | | 3年次 | ビジネスイングリッシュ、データベースと経営を学び、ビジネスの現場にとって必要な広範囲にわたる経営に関する知識や英語を含むコミュニケーション能力を深化させ、現場での適応能力を涵養する。 |
| | | | | 4年次 | ビジネスロールプレイングを学び、ビジネスの現場を想定した実践的テーマに基づいたシミュレーションを行うことで現場での適応能力をブラッシュアップする。問題発見から解決方法までのビジネスモデルを、迅速かつ確実な情報処理能力によって、現実社会に即して構築することを目標にこれまで4年間の教科で得た技術・知識・経験を統合する。 |